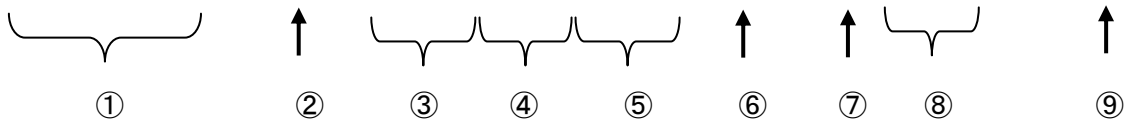


【記入例】 添付様式3-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

添付様式3-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (モニタリング時) (エ)	達成度 (エ)	達成見込みの有無		達成見込みがない場合の対応案 (注: 添付様式5を踏まえて記述すること)
			基準年度		基準年度		目標年度				あり	なし	
指標1	観光入込客数	人/年	従前値と同様の方法で平成21年度の観光入込客数(公共交通機関利用者数等)を把握し、過去の傾向(平成18~20年度)とあわせて評価値を推計	52,000	H11	55,000	H16	66,000	H22	58,300	△	●	事業により整備される街並み景観を活用するイベントを新たに計画する
指標2	居住人口	人	平成22年5月の住民基本台帳の月別データと過去の傾向から当該地区の居住人口を把握し、評価基準日の評価値を推計	850	H11	800	H16	1,000	H22	898	△	●	
指標3	■ 館来館者数	人/年	平成22年4月~6月に、対象期間中の入館者数を計測し、そのまま評価値とする	318	H11	315	H16	500	H22	455	△	●	広報等にて市民に新しい企画をPRする
指標4	地域コミュニティ形成	団体数	平成22年6月1日時点で、NPO 実態調査データから、地区内の市民活動団体数等を算出し、過去の傾向(平成18~20年度)とあわせて評価値を推計	-	H11	1	H16	3	H22	2	×	●	-



- ① 指標……都市再生整備計画に記載したすべての指標と単位を転記する。
- ② データの計測方法と評価値の求め方
……「時期」、「場所」、「実施者」、「対象」、「具体手法」等を記入する。
- ③ (参考) 計画以前の値 (ア)
…都市再生整備計画の作成より以前(概ね5年程度前)の値と、その年度を記入する。
(ただし、データがない場合、もしくは入手が困難な場合は、記入しないことも可とする。)
- ④ 従前値 (イ) …事前評価時に測定した値と、その年度を記入する。
- ⑤ 目標値 (ウ) …事前評価時に設定した目標値と、その年度を記入する。
- ⑥ 数値 (モニタリング時) (エ) …モニタリング時の計測値を記入する。計測不能の場合は空欄でよい。
- ⑦ 達成度 …モニタリング時の達成度を記入する。

達成度の評価基準	
評価の基準	達成度
① 評価値が目標値を上回った場合	○
② 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合	△
③ 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合	×

- ⑧ 達成見込みの有無…達成状況进行评估し、下記の基準に基づく評価結果を●で記入する。

種別	評価の基準	達成見込みの有無
達成	数値目標を達成している(評価値が目標値を上回った)場合	●印の記入は不要
達成見込み	現時点で数値目標を達成していない(達成度が△もしくは×)が、その要因が外部要因によるものが大きいことが合理的かつ客観的に確認され、1~2年以内に所要の目標が達成される見込みがある場合	「あり」に●印を記入
未達成	上記以外	「なし」に●印を記入

- ⑨ 達成見込みがない場合の対応…上記⑧欄の「なし」に●をつけた指標に対する対応案を具体的に記入する。

ただし、添付様式5による効果発現の要因の整理を踏まえて記述すること。

添付様式 3-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

◆都市再生整備計画に示されている数値目標以外の指標においても、まちづくり交付金の事業により、何らかの効果が出ている場合がある。まちづくり交付金の効果を正確に把握するには、効果の出ている様々な指標を収集しておくことが有益と考えられる。

ここでは、数値により定量的に効果が確認される場合に「その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）」として把握し、事業による効果の発現状況を検証することができる。

これらの数値指標は、今後とも引き続き監視していくことが、事業の効果的な取り組みにつながるものと考えられる。

添付様式 3-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

◆添付様式 3-①，②で把握した定量的な指標とは別に、定量的に表現できない定性的な効果が発現している場合は、その効果発現の状況を参考として記述することができる。

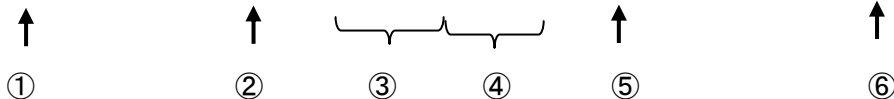
【補足・留意事項】

- ・ 都市再生整備計画に記載した数値目標及びその他の数値指標による効果発現の計測結果は、後述の「モニタリングの所見」や「改善策」を検討する際の判断材料となる。
- ・ 「その他の数値指標」を、都市再生整備計画に掲げた指標の「代替指標」として都市再生整備計画を変更する場合には、指標1つに対し、1つ以上の「その他の数値指標」が対応する必要がある。また、「その他の数値指標」を代替指標として用いる場合には、「代替指標」とする理由について、まちづくりの目標や既定の指標との関連性等を十分に考慮して検討する必要がある。
- ・ 都市再生整備計画を変更する際には、モニタリングの合理性、客観性を高めるために、住民への公表や有識者からの意見聴取を自主的に行うことが考えられる。

〔記入例〕 添付様式3-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況

添付様式3-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単 位	データの計測手法 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (モニタリング時) (ウ)	効果とみなし得る理由	
			基準年 度	基準年 度	基準年 度	基準年 度			
その他の 数値指標1	〇駅の乗降者数	千人 /年	△△鉄道〇線乗降者数調 査を基に、〇駅の乗降者数を 計測した	1,353	H11	1,324	H16	1,523	評価値が従前値の約1.3倍を示しており、観光入込客数のそれ(約1.2倍)を上回っているため
その他の 数値指標2	まちづくりワークショップ参加 人数	人/年	交付終了年度のワークショッ プへの参加人数を、開催時に それぞれ計測した	-	H11	60	H16	100	市民主体の委員会の開催等により、ワークショップの参加住民が増加した



〔記入例〕 添付様式3-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

添付様式3-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・本事業の実施に伴い、行政や住民のまちづくりに対する意欲が大きくに向上した。



- ① 指標……………都市再生整備計画に記入した以外の指標で計測した指標を記入する。
- ② 計測方法……………「時期」、「場所」、「実施者」、「対象」、「具体手法」等を記入する。
- ③ (参考) 計画以前の値 (ア)
……………都市再生整備計画の作成より以前 (概ね5年程度前) の値と、その年度を記入する。
(ただし、データがない場合、もしくは入手が困難な場合は、記入しないことも可とする。)
- ④ 従前値 (イ) ……事前評価時の値と、その年度を記入する。
- ⑤ 数値 (ウ) ……モニタリング時の計測値を記入する。
- ⑥ 効果とみなし得る理由
……………当該指標が、まちづくり交付金の事業によりもたらされた理由を記述する。
- ⑦ 定性的な効果発現状況…
……………定量的には表現できないが定性的な効果が発現している場合は、その効果を参考として記述することができる。

(2) 実施過程の評価

(添付様式4-①~②)

都市再生整備計画に、「住民参加プロセスの実施」、「持続的なまちづくり体制の構築」等の実施過程について記述した場合は、モニタリングにおいてこれらの状況や結果についても検証する。

※本記入欄（添付様式4-①~②）は、都市再生整備計画に記述がある場合は必須とする。さらに、記述がない場合においても、実際に上記の事項を行った場合には、「モニタリングの所見」作成に当り重要な検討材料となるため、なるべく記入することとする。

添付様式4-① 住民参加プロセスの実施状況

◆ここでは、都市再生整備計画で実施を予定していた「住民参加プロセス」の実施結果等を検証する。

※住民参加プロセス：交付期間中に事業計画や整備に対する住民の理解や協力を得るために行うイベントや説明会等のこと

添付様式4-② 持続的なまちづくり体制の構築状況

◆ここでは、都市再生整備計画で実施を予定していた「持続的なまちづくり体制」の構築等を検証する。

※持続的なまちづくり体制：都市再生整備計画に関わる取り組みをきっかけとして組成又は強化され、交付期間終了後も継続的にまちづくり活動を担う組織（協議会や懇談会等の任意組織や NPO、中間法人、TMO 等）

【補足・留意事項】

- ・ 住民参加プロセス、持続的なまちづくり組織について、それぞれ複数の実績がある場合は、次ページの各添付様式の各行を追加して記入する。

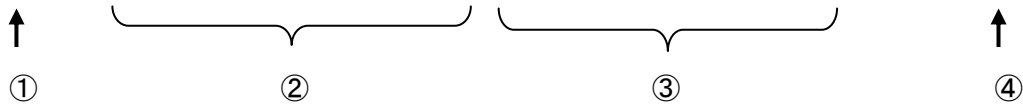
[記入例] 添付様式4-①～② 実施過程の評価

添付様式4-① 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した予定内容	実施状況	実施結果	今後の対応方針等
市民主体の景観形成委員会の実施	● 予定どおり実施できた	①実施頻度【4回程度/1年、計4回】 ②実施時期【平成〇年〇月～平成〇年〇月】 ③実施の効果： 持続的なまちづくり体制の組成に発展した。	今後も同様の方法で継続していきたい。
	予定していなかったが実施した		
	予定したがモニタリング時点では実施していない		

添付様式4-② 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した予定内容	実施状況	実施結果		今後の対応方針等
		①構築のための取組内容	②まちづくり組織名：組織の概要	
景観に係るまちづくり活動組織の構築	予定どおり構築できた	・市民主体の景観形成委員会の定期開催 ・地元住民団体、NPO等を交えた〇〇の景観計画案づくり	〇〇〇協議会：まちづくりの景観に関わる計画・デザインに関し、要望や提言などを行う市民の代表組織	・〇〇〇協議会の維持・継続に注力する。 ・協議会の中に、××に関する専門家の参画を図る必要がある。
	● 予定していなかったが構築した			
	予定したがモニタリング時点では構築していない			



① 都市再生整備計画に記入した予定内容

……「都市再生整備計画の整備方針等」/「その他」欄より転記する。

② 実施状況……実施状況の該当する欄に●を記入する。

③ 実施結果

【住民参加プロセスについて】

……「i. 実施頻度」「ii. 実施時期」「iii. 実施の効果」を記入する。実施効果については、数値目標の達成状況や具体的な成果等を記入する。

【持続的なまちづくり体制について】

……「i. 構築のための取組内容」「ii. まちづくり組織名：組織の概要」を記入する。

「i」は体制を構築するために実施した事項、又は、結果的に当該成果に寄与した取り組み等を、また、「ii」は、組織の目的や役割等がわかるように簡潔に記入する。

④ 今後の対応方針等……評価結果を踏まえた上で、まちづくり交付金の交付期間における今後の対応方針等（実施促進、実施できなかった場合の対応等）を記入する。

(3) 効果発現要因の整理

(添付様式5-①～③)

まちづくり交付金では、結果（事業の成否）だけでなく、その結果に至るまでのプロセスや原因等を総合的に分析することにより、成功要因を今後のまちづくりに活かし、十分な成果が出ていない場合等はその原因を究明して改善につなげることを重要視していることから、成果と実施過程について評価結果に至った要因の整理を行う。

添付様式5-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

◆効果発現要因の整理を行った検討体制の名称や構成員（所属や役職等）、検討の実施時期、及び、担当部署名について確認する。

※事業による効果発現の要因整理にあたっては、事業担当課のみならず、庁内の横断的な組織や外部の有識者（学識経験者、まちづくり専門家等）を交え、総合的かつ専門的な知見・技術をもって検討されることが望ましい。

【補足・留意事項】

- ・ まちづくり交付金は、複数の事業の組み合わせによる相乗効果の発揮を狙いの1つとしていることから、指標の改善に貢献した事業の組み合わせによる効果発現についても整理する。
また、ハード事業とソフト事業の連携などの視点についても言及する。